

## 博物館を利用した総合的な学習の時間展開例

1. テーマ 「自然の中の国際化！？外来種について調べよう」（小学校 高学年 総時間数30時間）

2. ねらい

身の回りの外来種について調べていく活動の中から、環境への理解と関心を深め、本来の生態系の在り方について考えを深めることができる。

外来種を通じて身の回りの自然について自ら課題をもち、意欲的に追究したり情報を発信したりすることができる。

博物館などの施設を利用して調べる活動を通じ、課題解決のための情報収集の方法を身に付けることができる。

3. 教科との関連

第5学年 社会科 住みよいくらしと環境

環境を守る

理 科 生命のつながり

第6学年 社会科 日本の歴史

新しい日本の国づくりを見つめよう

世界の人々とのつながりを広げよう

日本とつながりの深い国々

地球の環境と平和

理 科 生き物と養分

生き物のくらしと自然環境

4. 活動計画

配時	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点
	第一次 セイヨウタンポポをきっかけとして、外来種について調べる。	
2	1 セイヨウタンポポについて調べる。（一斉学習） （1）身近な植物であるタンポポ（セイヨウタンポポ）は、実は外国から来た植物であることを知る。 （2）セイヨウタンポポについて調べる。	普段は「タンポポ」と呼んでいるが「セイヨウ」という言葉を付けることにより、由来を考えるきっかけとする。在来種との比較を行う。
5	2 様々な種類の外来種について調べる。（一斉学習） （1）セイヨウタンポポの他にも外国からやってきた植物はあるのか話し合い、調べる。  （2）植物以外にも外来種はいるのか調べる。  （3）身の回りの自然を観察し、外来種を探す。	野生化しているものにしぼる。 植物ではセイタカアワダチソウやヒメジョオン、シロツメグサ。魚類ではブラックバスやブルーギル。昆虫ではアオマツムシ。その他にもアメリカザリガニやウシガエル、アカミミガメなどが身近な外来種として考えられる。 普段何気なく見ていた身近な生物の中に、外国から来たものが多く含まれていることに気付かせ、今後の課題をもたせる。（外来種についての新聞記事などがあれば提示する。

第二次

外来種についての興味・関心に応じてグループをつくり、調べるテーマを設定して、追究していく。

- 4 1 他の外来種について調べる計画を立てる。(一斉学習、グループ学習)
  - (1) 外来種についての疑問や、調べたい内容について話し合う。
  - (2) 外来種について詳しく調べたいものを決め、グループをつくる。
    - グループ分けの例
    - 「植物」「魚類」「昆虫」「哺乳類」「爬虫類」
  - (3) グループごとに調べる計画を立てる。
    - 調べる内容についての例
    - 「外来種のふるさとについて」
    - 「なぜ日本にやってきたのか」
    - 「外来種が生態系に与える影響について」
    - 「運動場の中の外来種」

【博物館利用本時分】

- 5 2 博物館へ行って外来種について調べる。(グループ学習)
  - 博物館での学習の計画を立てる。
  - 博物館の概要を知る。
  - 自然発見館を見学し、外来種について調べる。
  - グループごとに見学する。
  - 博物館のパソコンや図書資料を利用して調べる。
  - 博物館スタッフに質問する。
- 6 3 グループごとに計画に沿って調べる。(グループ学習)
  - フィールド調査
  - インタビュー
  - 図書資料、インターネット検索
  - 関連施設への問い合わせ

第三次

調べたことをまとめ、発表する。

- 5 1 発表の方法を考え、調べたことをまとめる。(グループ学習)
  - (1) どのような形でまとめるのか計画を立てる。
  - (2) 計画に沿ってまとめを行う。
- 2 2 外来種について発表会を行う。(一斉学習)
  - (1) 調べたことをグループごとに発表する。
- 1 3 外来種について学習した感想を話し合う。(一斉学習)
  - (1) 今後、身のまわりの自然環境の中で外来種はどうあるべきか、また学習してきたことをもとに自然環境全体について話し合う。

なぜ日本にいるのか歴史的背景や地理的条件などの面から調べていくことができるようにする。また、外来種が在来種を追いやってしまうなど、生態系に与える影響について目を向けさせる。

児童の関心に応じてグループ分けを行う。

調べていく中に博物館での学習を含むことを伝える。

事前に博物館との打ち合わせを行い、計画の内容を伝える。

具体的課題をもって博物館に行くことができるようにする。

さらに詳しいことが知りたい場合は、博物館スタッフに質問したり、情報館で調べたりすることができることを伝える。

グループごとの調査計画を把握し、必要に応じて声かけを行う。

インターネットでの検索方法や、関係施設への問い合わせ方法についても指導する。

まとめ方や発表の方法についてアドバイスをを行う。

他のグループの発表の内容と、自分たちで調べたものとを比較したり、共通点を見つけたりしながら聞けるようにする。

外来種を通して自然環境全体に目を向けることができるようにする。

人の国際交流との違いについてふれる。

5. 博物館利用（本時）の展開例

(1) 本時のねらい

- ・ 博物館の施設を利用して外来種についての情報を幅広く集めることができる。
- ・ 外来種について新しい知識を得ることができる。

(2) 展開（第二次 2）

配時	主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	博物館資料・施設
2	<p>1. 博物館での学習の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館での展示内容を確認する。</li> <li>・ 調べたいことをリストにまとめる。</li> </ul>	<p>事前に博物館のミュージアムティーチャー（MT）と打ち合わせを行い、学習の計画を伝えておく。</p>	
3	<p>1. 本時の学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>博物館の資料を使って外来種について調べよう。</p> </div> <p>2. ガイド館で博物館の概要についてのビデオを見て、見学の仕方や施設の利用について説明を受ける。</p> <p>3. アースモール、エンバイラマ館を見学し、北九州市の自然史の大きな流れを知る。</p> <p>4. 自然発見館を見学する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な外来種についての概要を知り、いろいろな種類の外来種を見学する。</li> </ul> <p>5. グループごとに分かれてそれぞれのテーマに沿って調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然発見館の北九州の海、川と池、林、各コーナーで北九州の自然について調べる。</li> <li>・ 歴史ゾーンテーマ館、近代の北九州で北九州の都市化、港の繁栄、海外との交流について調べる。</li> <li>・ 情報館で展示物の検索を行ったり、図書資料で調べたりする。</li> </ul> <p>6. 調べて分からなかったことなど、具体的な質問を直接博物館スタッフに質問する。</p> <p>7. 博物館で調べたことをまとめる。</p>	<p>引率教師の待機場所、避難経路などなどについて伝える。</p> <p>必要に応じてメモをとる。</p> <p>調べている種についてだけでなく、広い視野から見学するようにさせる。</p> <p>いろいろな角度からテーマ迫ることができることを伝える。</p> <p>情報館で調べ、展示コーナーへ実物を見に行くなど、施設を活用できるようにアドバイスを行う。</p> <p>分からないことがあって困っているグループには学芸員に聞いてみるように声をかける。</p> <p>友達との情報交換を行ったり、博物館で調べたことを分かりやすくまとめたりして学校に持ち帰るようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイド館</li> <li>・ 博物館の概要説明ビデオ</li> <li>・ アースモール</li> <li>・ エンバイラマ館</li> <li>・ 自然発見館</li> <li>・ 自然発見館</li> <li>・ 北九州の海、川と池、林、草原</li> <li>・ 歴史ゾーンテーマ館</li> <li>・ 近代の北九州</li> <li>・ 北九州の都市化</li> <li>・ 港を築く</li> <li>・ 情報館</li> <li>・ 展示物検索性用パソコン</li> <li>・ 図書資料</li> <li>・ 実習室</li> </ul>